

JP119 大阪南港（大阪南港野鳥園）（おおさかなんこう）

大阪府：大阪市

位置	N 34° 38′ E 135° 24′
面積	19ha

環境構成【湿地エリア：12.8ha 植栽エリア：6.5ha】

大阪南港野鳥園は大阪湾奥部の大阪南港埋立地の一角に位置し、周辺には漁場、航路、港湾施設、ビジネスエリア、住宅地が存在する。かつてここは海であり、ここから直線距離で9km内陸側に海岸線があり、その前に住吉浦と呼ばれる自然干潟がひろがっていた。住吉浦は、シギ・チドリ類などの渡り鳥の重要生息地となっていたが、埋め立ての進行とともに、渡り鳥の生息地は埋立地へと移らざるを得なくなった。現在は、野鳥園の人工干潟と塩性湿地からなる湿地エリアが、大阪湾岸でのシギ・チドリ類の渡りの中継地として



写真提供：石井正春

重要な役割を果たしている。環境保全上の問題としては、湿地エリアの地盤沈下、アオサの繁茂、海水滞留による底質劣化、釣り人の侵入、ゴミの流入などを抱えている。コチドリ及びシロチドリは、園内にある干満のある三つの池で、干潮時の干潟では春も秋もよく見られるが、秋の方が個体数が多くなる。これは、航路を隔てた対岸の埋立地（北港南地区埋立地：390ha）において、コアジサシとともにシロチドリやコチドリが繁殖しており、繁殖後の秋から幼鳥を含めた個体群が南港野鳥園の干潟に多く飛来するためである。

選定理由

A4i	コチドリ・シロチドリ
-----	------------

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10パーセント未満）である

<その他>

東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

保全への脅威

- ・地盤沈下
- ・海水滞留エリアの底質劣化

- ・ゴミの散在（導水管からのゴミの流入、釣り人の捨てるテグスなど）
- ・釣り人の侵入（今年から大阪市港湾施設条例の改正により、南港野鳥園周辺の護岸が立ち入り禁止区域となり、釣り人の侵入は少し減少したが、皆無にはならない）
- ・後背地の環境変化の影響（大阪市内で大阪湾岸に位置するが、周辺の埋立地や空き地などの後背地（休息地や餌場として利用）の開発や太陽光パネルの設置が進んでシギ・チドリ類の渡来数は安定せず、この後背地と野鳥園を行き来するシギ・チドリ類の個体数も影響を受けて変動ないし減少してきた。）

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
減っている
シロチドリの減少が顕著で、3 桁台から 2 桁台の個体数となってきた。
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
生物多様性センターホームページのモニタリングサイト 1000 の調査結果より
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある
詳細、具体例等： 周辺環境（後背地）の開発が進んでいる
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
悪い（40～70%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無
- * 大阪湾奥に位置する野鳥園は、近年の大阪湾奥の栄養塩濃度がピーク時の 1/4 に低下したため、園内に入ってくる海水の栄養濃度が低下し、以前のようにアオサ類の大量繁茂は全くなかった。逆に、アオサ類に付着してくる様々な生き物の減少も目立ってきた。大阪湾の変化が及ぼす野鳥園の底質やベントスへの影響を調査中。

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（NPO 法人南港ウェットランドグループ）
内容：水鳥の休み場づくり、ヨシ刈り、シギチの餌場づくりなど。
- ・ 環境教育活動：実施者（NPO 法人南港ウェットランドグループ）
内容：野鳥（シギ・チドリ類、渡りの小鳥類）の観察会、干潟の生きもの観察会、ヨコエビ類のサンプリングと定量調査（ソーティング）体験、広報・啓発活動（園内掲示、ホームページ作成など）、地元中学校との環境保全活動と環境学習定例探鳥会（日本野鳥の会大阪支部）
- ・ 保全のための人材育成活動：実施者（NPO 法人南港ウェットランドグループ）
内容：野鳥ガイドの養成（養成講座卒業ガイド 17 名が 2015 年 6 月から

活動開始している)

- ・モニタリング調査：実施者（NPO 法人南港ウェットランドグループ）

内容：シギ・チドリ類の個体数などのモニタリングを継続。

湿地の鳥類調査、干潟の生きもの調査、干潟の現況調査など。

モニタリングサイト 1000 調査（北港南地区と大阪南港野鳥園）

- ・その他

リフレッシュ瀬戸内、クリーンアップキャンペーン（湿地部の清掃）（大阪市港湾局 経営管理部海務担当）、企業の清掃活動（年 2 回、100 名以上の規模で実施）

*鳥獣保護区にはなっておらず、市民利用・環境教育施設として、湿地エリア（干潟を含む）と施設は大阪市議会の付帯決議によって、当面は保全されることにはなっているが、将来はわからない。以前と違って無人施設となり、NPO が大阪市との協働型事業委託契約により 2019 年 3 月末まで、環境保全、環境学習、環境調査、広報啓発事業を大阪市と協働で行うこととなっている。

IBA サイトの保全に関係する地域のグループ

- ・NPO 法人南港ウェットランドグループ
- ・日本野鳥の会大阪支部

見られる鳥

これまでに観察された主な野鳥（生息区分は大阪府鳥類目録 2001 にほぼ準じる）

追加種

2007 年 4 月 ギンムクドリ

2008 年 1 月 ケアシノスリ

2009 年 1 月 クロツラヘラサギ

2009 年 10 月～12 月 サンカノゴイ

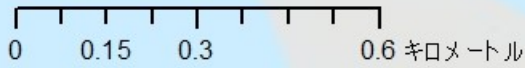
留鳥	カイツブリ、カワウ、ダイサギ、ミサゴ、トビ、オオバン、イソシギ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、ウグイス、セッカ、メジロ、カワラヒワなど
夏鳥	ササゴイ、ミゾゴイ、アマサギ、ヒクイナ、コチドリ、シロチドリ、コアジサシ、カッコウ、ツツドリなど
冬鳥	ハジロカイツブリ、クロサギ、ツクシガモ、オシドリ、オナガガモ、ミヤコドリ、オオハシシギ、オオセグロカモメ、シロカモメ、アリスイ、ビンズイ、タヒバリ、キレンジャク、カヤクグリ、ルリビタキ、ツリスガラ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジ、オオジュリン、アトリ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、ニューナイスズメなど

旅鳥	チュウサギ、カラシラサギ、クロツラヘラサギ、チゴハヤブサ、ハジロコチドリ、メダイチドリ、ヒバリシギ、オジロトウネン、ヒメウズラシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、クロハラアジサシ、アジサシ、アオバト、ジュウイチ、コノハズク、アマツバメ、アカショウビン、ショウドウツバメ、ツメナガセキレイ、ムネアカタヒバリ、サンショウクイ、コマドリ、ノゴマ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、メボソムシクイ、コサメビタキ、ノジコなど
迷鳥	ハシボソミズナギドリ、コクガン、ツルクイナ、ヒメハマシギ、キマユムシクイ、カラムクドリなど

関連団体・自治体・施設等

- ・大阪南港野鳥園
- ・日本野鳥の会 大阪支部

N



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community